
特別講演

演 題

コロナ禍で学生はどう学んでいたのか —遠隔授業と対面授業の効果的な共存を見据えて—

講 師：関西大学教育推進部教育開発支援センター准教授
山田 嘉徳 先生
(やまだよしのり)

〔講師紹介〕

関西大学教育推進部教育開発支援センター准教授。
専門は学習研究・教育心理学。日本学術振興会特別
研究員、関西大学教育推進部特任助教、大阪産業大
学学部学科再編準備室講師、大阪産業大学全学教育
機構講師・准教授・学長補佐を経て、現職。学生の
学びと成長につながる、遠隔授業と対面授業の効果
的な共存をどう考えるのか、学習研究の立場から探
究。著書に『大学卒業研究ゼミの質的研究—先輩・
後輩関係がつくる学びの文化への状況的学習論から
のアプローチ—』（ナカニシヤ出版）等。



【講演要旨】

2020年度の大学の授業は、コロナウィルス感染症対策の一環で、実施形態の変更を余儀なくされました。当時、キャンパスへの入構制限がなされ、自粛を要請された学生の学びがどのようなものであったのかについて、その実態をより丁寧に捉える調査が必要と感じていました。本講演では、『『コロナ禍における大学生の学び』の質的調査』プロジェクトについて、研究仲間と共に立ち上げた経緯、取組内容、成果を中心にご紹介させていただきます。

また今後ますます、大学教育の多様化と専門化が進む中で、学生の学びの現状を見据えた教育・学習環境づくりが求められると考えられます。学生のより良い学びと成長につながる授業づくりのあり方について、遠隔授業と対面授業の効果的な共存をどう考えるのかを焦点に、学習研究の立場から考察を深めたいと思います。